

ちょっと ブレイクしませんか？

第 3 回

バックドラフト

イソップ物語に「毛を刈られる羊」という小話がある。

「下手な刈り方をされる羊が、刈り手に向かって言うには『毛を取るのなら、もっと浅く切りなさい。肉が欲しいのなら、ひと思いにばっさり殺って、少しずつ苦しめるのは止めておくれ』」

技術の下手な人々にはぴったりの逸話だ。新米の床屋さんに髭を剃られる時に、皮膚まで切られた体験をお持ちの方もおられるかと思う。

今回紹介するのは「バックドラフト」（1992年 米国）という作品だ。ハンス・ジマーのBGM音楽の方が有名なほどだが、消防士兄弟の葛藤と日夜火災と戦い続ける男たちの群像を描いた大作ドラマ。

幼い頃、消火作業中に父の死を目の当たりにした息子ブライアンが職を転々とした末に、故郷のシカゴに新米消防士として戻る。彼が配属された17小隊には兄や父の部下がいた。着任早々、火災現場に向かったブライアンは、そこで兄の英雄的な活躍を目にする。兄のこうした勇敢な行動は、父の死の現場にいなかったという悔恨の念から来ていた。しかし、現場に駆けつけた火災調査官はこの1件を放火だと断言した。消防隊に入って幾日か経った頃、ブライアンは兄に負けじと訓練に励むようになる。現場で炎を前に尻込みをするブライアン。消防車の上で彼女といちゃついている間に消防車が出動する場面は、ブライアンの間抜けさを滑稽に描いている。そんな弟を叱咤して兄は踏み込んでいって少年を救い出す。ブライアンは放火常習者の助言も得て放火犯を探す。ブライアンは兄を犯人と疑い火災現場で対決しようとするが、犯人は兄ではなかった。しかし、その瞬間爆発が起こり、兄は同僚を助けようとするが、二人とも命を落としてしまう。逃れたブライアンは父と兄の志を継いで消防士として生涯を捧げることを誓うのだった。

バグパイプの音楽で死者を葬送する様は荘厳だが、仕事で死んではいけないと生き残った人々に強い誓いの心を刻んでくれる。

消防士はわが国でも江戸時代から勇敢な男の象徴だった。9月11日の同時多発テロでも命を賭しての消防士の活躍が目覚ましかった。

消防士のような存在にも似たrkeの技術者は、ものづくり日本を支える陰の英雄でもある。どの世界にも生まれつきの達人はいない。ブライアンのような新米消防士がプロ意識に目覚める時、確実に新たな技が伝承されてゆく。気力が沸々と湧いてくるハンス・ジマーの音楽、是非一度鑑賞してみては？



精神科医・映画評論家

かゆ かや ゆう へい
粥川 裕平

国立大学法人名古屋工業大学
保健センター長
大学院産業戦略工学専攻教授